

体育（小学校）

1 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

◆各種の運動の特性に応じた体育の授業づくり

6つの運動領域における各種の運動は、楽しみ方や解決すべき課題やその解決方法が異なる。そのため、各種の運動で得られる楽しさや喜び、そこで解決すべき課題、それらの解決方法に応じた行い方を理解することができるようにする。また、それらの理解は、各種の運動の基本的な動きや技能を身に付けることに効果的である。

◆3つの資質・能力をバランスよく育む学習過程の工夫

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力とは、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つである。これらの資質・能力を育成するためには、児童の発達の段階、能力や適性、興味や関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決するなどの学習が重要である。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待って	語らせつないで	認め励ます
■児童が運動に取り組みなくなる工夫 運動が苦手な児童の実態を踏まえた場やルールを設定する。	■対話する視点と ICT 端末の効果的活用 「する」ことだけでなく「みる」視点を明確にしておくことにより、課題解決のための対話が活発に行われるようにする。その際、ICT 端末を効果的に活用する。	■肯定的フィードバックを増やす 「ナイス!」「いいね!」などの称賛を増やすとともに、技能以外の友達と協力して活動できていることも「できる」と評価する。

2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を踏まえた授業の流れ（例）

第5学年ハンドボールを基にした簡易化されたゲーム

【前時】①簡単なゲームを行い、得点できる作戦を見付ける。
②得点につながった作戦を共有する。

目標：ルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を選んだりすることができる。

導入

◆本時の課題を把握する。

課題：もっとたくさん得点するには、どのような作戦で攻めたらいいのだろうか？

・前時のゲーム記録や動画をもとにして、自分たちのチームの課題を把握し、どのような作戦の選択をすればいいかの見通しを持たせるようにする。

展開

◆ゲームⅠを行う。

・どの作戦が自分たちのチームの特徴に合っているのかを考えながらゲームを行う。

◆交流する。

・ボール操作とボールを持たない時の動き、ボールを運ぶ場面とシュート場面など、視点を明確にして話し合う。

◆ゲームⅡを行う。

・交流で明らかになったよい動きができている児童を称賛する。

終末

◆振り返りを行い、次時の課題を見付ける。

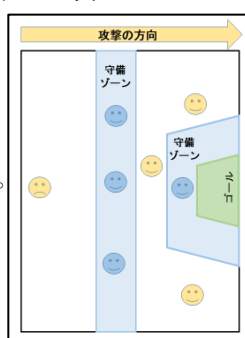
・自己の振り返りを行うとともに、次時の課題を見付ける。

ルールの工夫

- ・攻守交替制で、攻撃の一方通行とする。
- ・ボールはチームで選択できるようにする。（新聞紙ボール、ソフトドッジボール等）
- ・ドリブルなし、パスのみで攻撃

場（コート）の工夫

- ・守備ゾーンを設けることにより、攻撃優位のゲームにする。
- ・台形型ゴールを使い、どの方向からでもシュートを打ちやすくする。
- ・横長のコートにすることにより、スペースを使った攻撃をしやすくする。



保健体育科（中学校）

1 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動の多様な楽しみ方を共有することができるようにする。

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成に向けては、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるようにすることが重要である。

体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会であることから、原則として男女共習で学習を行うことが求められる。その際、心身ともに発達が著しい時期であることを踏まえ、運動種目によってはペアやグループの編成時に配慮したり、健康・安全に関する指導の充実を図ったりするなど、指導方法の工夫を図ることが大切である。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待って	語らせつないで	認め励ます
■「面白そう!」「うまくなりたい!」をもたせる ルールや教具等の工夫、単元のゴールの共有等から一人一人に見通しと目標をもたせる。	■語るための視点と環境 課題発見、課題解決の視点をもたせ、技能等に関わらず誰もが発言できる環境をつくる。	■互いの取組みを認め合う、高め合う 結果だけでなく取組みの過程を含め個の成果（できるようになったこと）を認め合う機会をつくる。

2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を踏まえた単元の流れ（例） 第1学年「球技」（ゴール型：サッカー）

単元の目標

- ゴール型の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性、技術の名称や行い方を理解するとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。
- 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- ゴール型の運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとすることや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

序盤 ◆オリエンテーション

- ・単元を通して行うゲーム映像を見たり、試行したりして、目指す姿をイメージしたり、目標立てたりすることができるようにする。ゲームは、体力や技能の程度等にかかわらず、誰もが積極的に取り組むことができるようにルールや教具等の工夫を行う。

中盤 ◆課題発見、課題解決

- ・ゲーム映像や数値データ（得点数やパス成功数等）を使って、自チームと相手チーム等を比較し、課題発見できるようにする。その際、ICTを活用し、体力や技能の程度等にかかわらず、誰もが客観的な視点から発言できるように工夫する。
- ・映像やデータ等を分析する際の視点※について明確にし、主体的に課題解決に向けて取り組むことができるようにする。

◆振り返りと生徒の課題意識に沿った単元展開

- ・「～～できるようになりたい」「～～がうまくいかない」等の振り返り記述等から、生徒の課題意識を踏まえて、各時間の学習課題を設定・修正する。

※分析の視点（例）

- ✓体のどこをどのように動かすのか？
- ✓体の向きは？
- ✓どこに動けばいいのか？
- ✓どこが空いているのか？
- ✓いつパスを出せばいいのか？
- ✓いつ動けばいいのか？ 等